

事業者向け

放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	13			スペースが広く、室内でも様々な活動が展開できる。
	2	職員の配置数は適切であるか	13			手厚く個人に向き合うことができるよう、スタッフ1に対して児童2以下の編成をしている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	12	1		車いすの児童の為に、簡易スロープや手すりの設置を行っている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	12	1		一日の支援後に流れや利用者支援の反省を行い対策へつなげている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	13			評価表を保護者に書いていただき、改善対策を行っている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	13			リタリコホームページにて公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	13			保護者によるアンケート、児童発達支援センターや相談専門員、障害福祉課等からアドバイスをいただき、改善につなげている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	13			事業所全体、また個人に対して必要時に研修を行えている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	13			保護者協力のもと、JSI-Rなどのツールや半年に1度以上、個別支援計画書を作成し、計画的に支援を行っている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	13			JAI-Rでの感覚統合の診断と、児童ごとの記録により、把握している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	13			事前に立てた活動計画を基に朝礼にて活動のシュミレーションと見直しを皆で行い活動している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	12	1		外出先や室内活動のバリエーションを増やし、様々な体験ができるよう工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	13			事前の活動計画にて計画し、様々な体験ができるようバリエーションを増やしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	13			個別支援計画に基づき、集団活動、個別活動とを取り入れている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	13			朝礼にて計画のシュミレーションと見直しを行い、確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	13			支援後に、その日のスタッフの支援の仕方や児童の様子、行動などについて話し合い、記録している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	13			児童の家庭とのやり取りの連絡帳、支援業務日誌などを活用し、検証改善している。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	12			半期に1度の個別支援計画書の再作成以外に、利用者の状況変化に柔軟に支援ができるよう、会議などを通し、話し合いの場を設けて判断している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	13			様々な経験ができるよう、活動バリエーションを増やし活動している。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	13			日頃の記録と共に、責任と技術のあるスタッフが参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	12	1		引き渡し時にその日の様子をうかがう他、トラブル発生時は現場のリーダーからの支持を行い早期解決に努めている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	4	5		各当児童がおらず。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	9	4	1	児童の見学をお互いに行う等、情報の共有を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	4	4	1	各当児童がおらず。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	11	1	1	療育に関する内容や支援方法等の助言を定期的に受けている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	13	1		児童館、公園などで一般のお子さんと交流を行っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	4	3	6	コロナウイルス感染防止の観点で実施できていない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	13			送迎時の報告や、連絡帳にて情報の共有を行っている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	13			本の貸し出しや、面談の際などに、ペアレント・トレーニングの手法を伝える等している。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	13			契約時に説明を行っている。また、変更時には都度説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	13			送迎時に話をする他、必要時に面談を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		6	7	コロナウイルス感染防止の観点で実施できていない。

	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	12			窓口、責任者を配置し、保護者に説明をしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	12			保護者向けにおたよりを定期的に発行している。
	35	個人情報に十分注意しているか	12			個人情報の漏洩を防ぐ為、入社時に同意書、また、研修も行っている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	13			絵カードなどを使用している他、連絡帳にて利用時の連絡を行う等している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	4	8	コロナウイルス感染防止の観点で実施できていない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	13			マニュアルを作成し、提示、周知している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	13			年2回以上の避難訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	13			年1回虐待防止の研修を行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	13			危険時やシートベルト以外は拘束せず。必要な場合は個別支援計画に対応方法を提示し、説明と同意のもと実施する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	13			事前の聞き取りのもと、おやつは持参してもらい、対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	13			同法人で運営している事業所間で共有し、改善策を立てている。